

楡の里人づくり基金助成事業『教育支援活動のタイ国・ラオス国を訪問して』参加報告

字中和 樋口 百合子

私が「メコン基金」に出会えたのは、今から20年程前のことです。主人がふと「メコン基金」に身を傾けることになり、タイ及びラオスの国の子供達の教育支援活動に参加するようになり、今までに何十人もンの里親となり、援助して参りました。

今回、私たち夫婦と孫5人、娘との8人が、タイ及びラオスの国を訪問することとなり、3月20日夕方に成田空港を発ち、夜中にタイ国のバンコクの空港に着きました。夜中なのに空港の外に出ると暑さにびっくりしました。



翌日、タイ東北部農村地帯のノンカーイ県に飛行機で行き、そこから車でメコン川を渡って隣国ラオスの首都ビエンチャンに入り、ひたすら山岳地帯を走り続け、途中板が折れたり、穴があいている橋を渡るなどして、車で3時間以上も走り、山奥のレストハウスが今夜の宿泊場所でしたが、部屋に入るといきなり「ヤモリ」があちこちから飛び出して歓迎され、孫達も大騒ぎしていました。「大丈夫だよ」と言った私も心の中で悲鳴をあげていました。

翌日、メコン基金の援助で建設されたラオスの小学校3校を訪問しました。1校目はヴィエントン小学校で生徒数130

名位で5年生までが勉強していても、教室が4つしかなく、4年生は古い校舎で勉強していました。その校舎は掘建て小屋で、床は土間、屋根は古いトタンで穴だらけ、机・椅子もなんともお粗末な物でビックリしました。そんな中でも子供達が一生懸命勉強をしている姿を見て、目頭が熱くなりました。ノートや鉛筆を持っていない子も大勢いました。言葉こそ通じませんでしたが孫達が持ってきていたサッカーボールで短い時間でしたが、ひとつのボールを蹴りあいながら和気あいあいと交流することが出来ました。

2校目は、更に山奥にある東美小学校で、生徒数も100名足らずですが、ここも大変なところでした。水が無いので、トイレに鍵がかかっています。この学校は井戸掘りの援助も受けているようですが、中々水が出ないそうです。生徒の着ている服も汚れが目立ち、家庭の水もないんだろうと思いました。私達が何気なく使われている水を少しでも分けてあげられたらとつくづく感じられました。

3校目は、300人以上いる大きな学校でしたが、グラウンドで野球ボール程のボールを蹴って大勢の子供達が遊んでいました。グラウンドと言っても、でこぼこで石ころだらけで、「これがグラウンドなの!!」と思う程でした。この学校では、手押しのポンプで生徒達がバケツで教室まで水を運んでいました。靴も履かず素足の子も大勢いましたが、にこにこして、挨拶をしてくれました。日本では到底考えられない状態でした。

翌日、タイに戻り、春休みでしたので、里子の家に案内していただき、大勢の人が集まって歓迎されました。家の中に案内されびっくりしました。台所が外にあるのですが、どうやって使っているのかと思いました。水は大きな瓶の容器に雨水を貯めて大事に使っていると言っていました。そこで、ラオス・タイ東北の歓迎の式「バーシー」の儀式と言うものをやっていただき手首いっぱい木綿糸を縛ってもらいました。

最後にメコン基金のタイ事務局になっているコーコン中学校へ行き、休みでしたが、数名の生徒と交流しました。タイではホームステイをしようと思っていたのですが、今回は学校が休みなのと小さい子供も行ったため、残念ながら孫達に体験させることが出来ませんでした。何か心に残っているものがあるかと思えます。私も主人が行った時のことを話しては聞いておりましたが、実際に自分のこの目で見て、本当に貧しく、食糧そして水不足の中で皆の笑顔に輝きがあるのに感動して帰って参りました。今回は、多くの皆様にお世話になり、貴重な体験をさせていただきましたことに深く感謝を申し上げます。



※楡の里人づくり基金事業は、今年3月末で制度が廃止となり、現在は助成を行っておりません。